

# I. 調査要領

## 1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 2020年1月6日

(2)調査対象期間 2019年10月～12月期の実績および2020年1月～3月期の見通しについて調査した。

## 2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各30社、計150社を抽出し郵送により調査した。

## 3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回答率
商業+食品業部会	30社	16社	53.3%
水産業部会	30社	16社	53.3%
機械工業部会	30社	11社	36.7%
建設業部会	30社	17社	56.7%
観光・サービス業+諸業部会	30社	16社	53.3%
合計	150社	76件	50.7%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

## Ⅱ. 概況

—業況は全業種で好転し、わずかに回復するも、次期は再び大幅悪化の見通し—

### 1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業業景況調査の**今期(2020(令和元)年10月~12月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比で▲2.7**と前回調査時の▲13.8より**11.1ポイント回復**となりました。前回調査時の次期見通しは▲12.6だったことから、予測よりも業況が好転した結果となりました。

部会別に前年同期比ベースをみると、商業・食品業[前年DI値▲62.5→**今期▲40.0**]、水産業[前年DI値▲12.4→**今期33.3**]、機械工業[前年DI値▲27.3→**今期▲21.5**]、建設業[前年DI値▲5.8→**今期0.0**]、観光・サービス・諸業[前年DI値▲43.7→**今期▲6.6**]となりました。

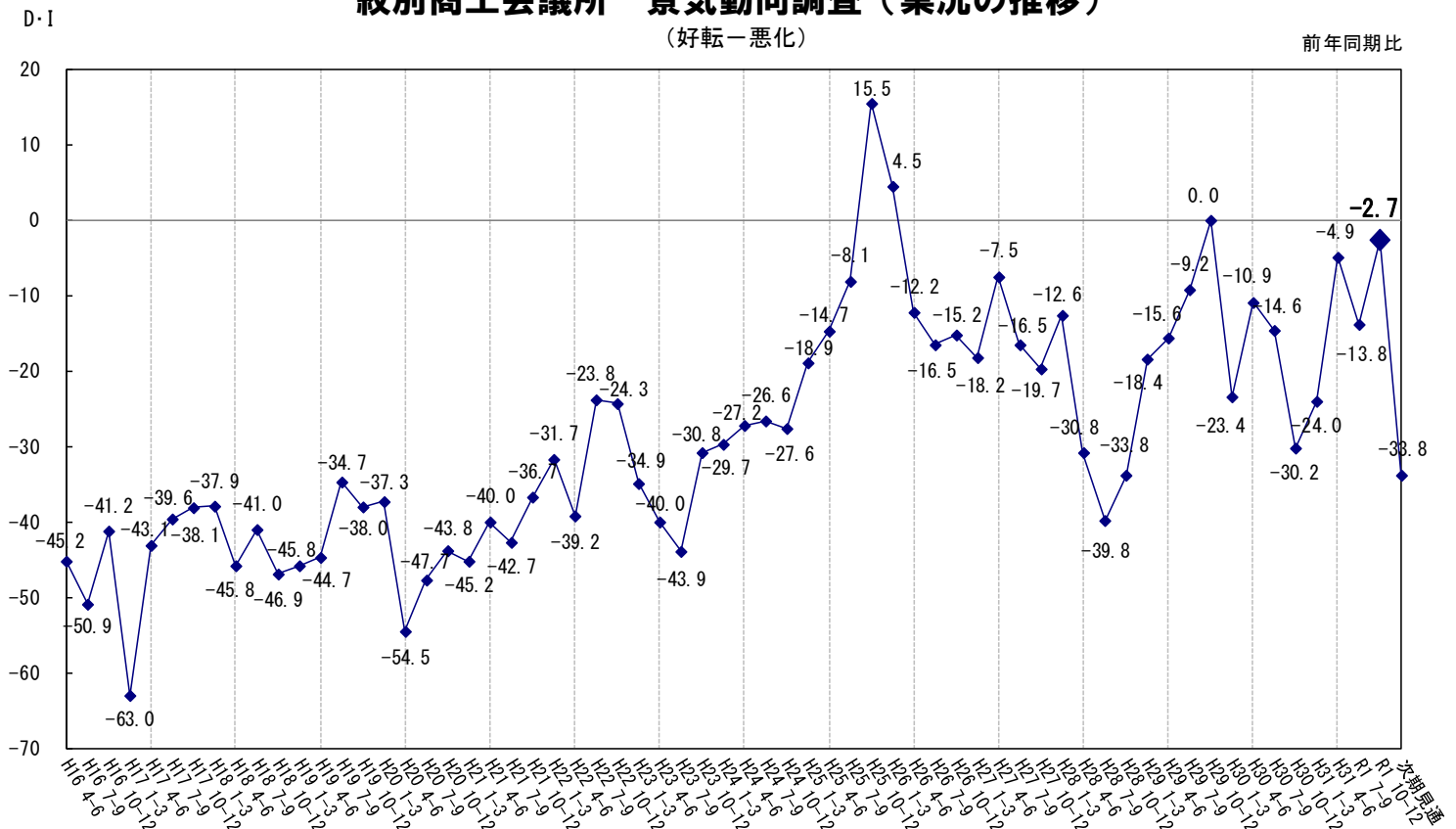
今回の調査では、**全ての業種で前年同期より業況が「好転」**しました。従業員不足に加え、需要の停滞を訴える声は全業種を通して依然多く、コンビニエンスストアでは、深夜帯の客数減少から、24時間営業をやめる事を検討しているとの声も寄せられました。また、消費税増税後、仕入単価や商品の輸送費の増加となったことや、平年よりも気温が非常に高く、年明けまでほとんど積雪が無かったことから、機械工業や建設業では除雪作業や季節商品の販売数が減少し、売上が低調との声も寄せられております。

**次期(2020年1月~3月)**については、**業況判断DIが▲33.8と再び大幅に悪化する**との予測となっています。特に、休漁期となる水産業は66.6ポイント、除排雪作業の少なかった建設業については46.7ポイントの悪化を示しておりますが、今後、インフルエンザや世界中で猛威を奮っている新型肺炎コロナウイルスによる観光や産業への影響がどこまで広がるのかが懸念されます。

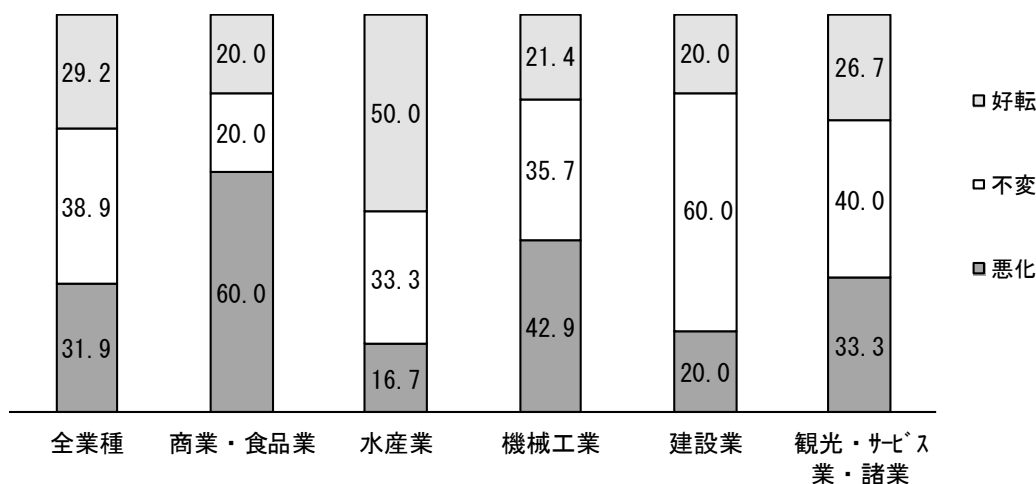
### 紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)

(好転-悪化)

前年同期比



### 今期の業況（前年同期比）



全業種の経営上の問題点としては、「**需要の停滞**」「**従業員・熟練従業員の確保難**」「**原材料・材料価格の上昇**」を訴える声が多くなっています。

### ■部会別の動向

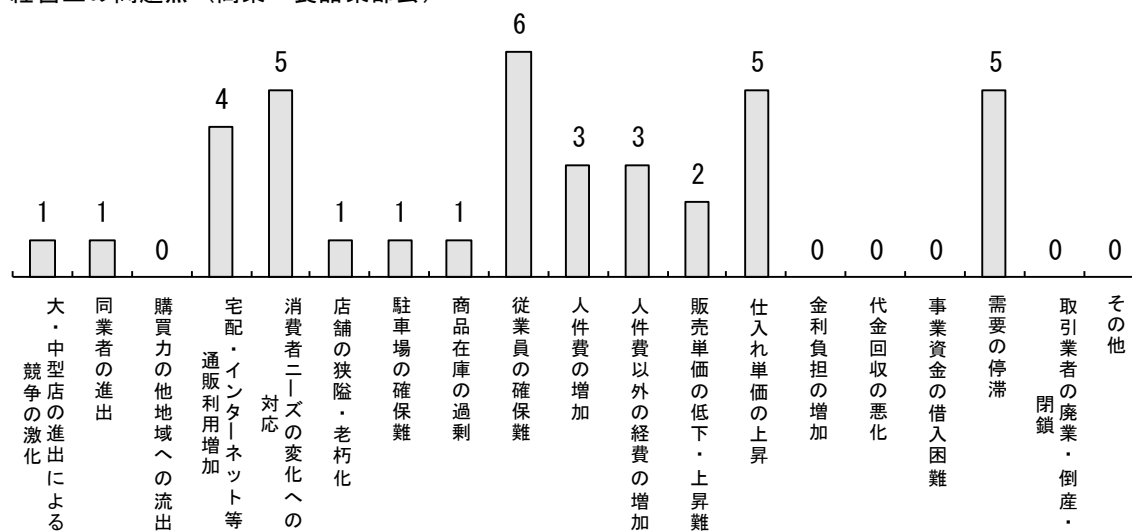
【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲40.0（前年DI値▲62.5、来期見通し▲50.0）〕

業況DI値（前年同期比）は、前年同期と比べ22.5ポイントの回復となりました。目まぐるしく変化する消費者ニーズに小売店のみならず、商品を卸す問屋自体が対応しきれずに、需要が停滞に繋がっているとの声も寄せられています。また、人手不足の中、利用客数の少ない深夜営業の廃止を考えている店舗もあり、労働者の確保は深刻さを増しています。次期見通しは前年同期には及ばないものの、今期よりは回復する予想となっています。経営上の問題点としては「従業員の確保難」「消費者ニーズへの変化の対応」「仕入単価の上昇」「需要の停滞」を訴える声が多くなっています。

#### 《業界の問題点等》

- ・夜中はお客様が少ない為、24時間営業をやめたいと思っています。（食料品小売）
- ・問屋、小売店ともに顧客ニーズに対して反応が薄い。売れない物ばかり仕入れる。（食料品小売）

経営上の問題点（商業・食品業部会）

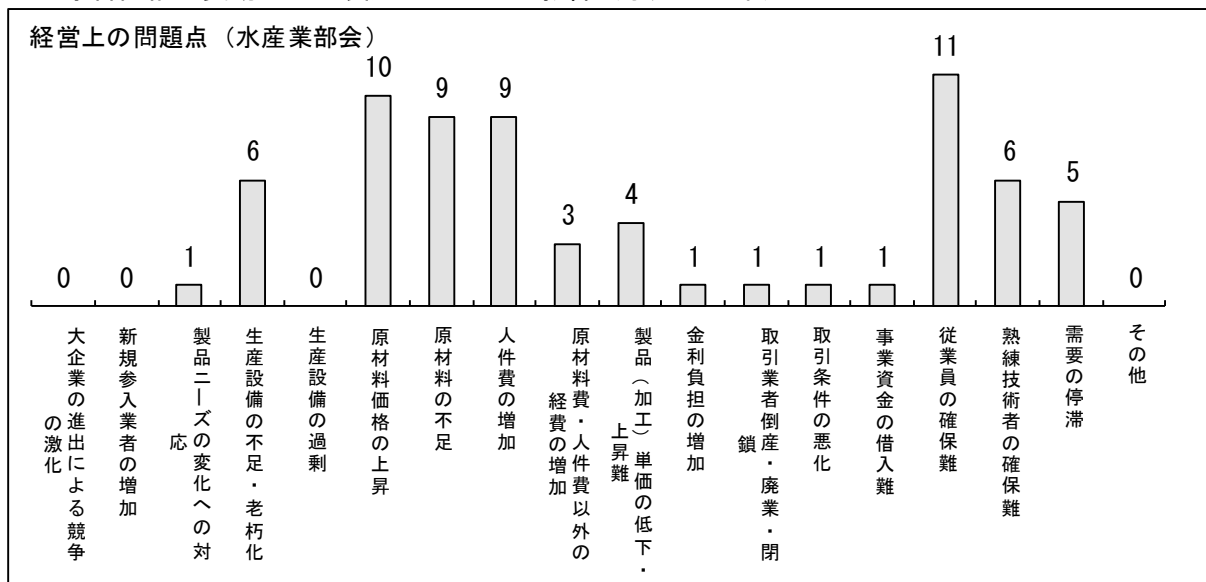


【水産業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）33.3（前年DI値▲12.4、来期見通し▲33.3）〕

業況判断DI値（前年同期比）は45.7ポイント大きく好転しました。主力であるホタテやその他の魚種でも水揚げが昨年よりも好調に推移し、好転を示す回答が多くなった一方で、消費税増税により国内消費は落ち込んだとの声も寄せられています。しかしながら、冷凍製品の輸出が順調に推移したことが今期の大幅な好転に繋がったと考えられます。2020年6月1日より（経過措置2021年5月末まで）、全ての食品を取り扱う事業者（飲食店も含む）に対し、「HACCP」に沿った衛生管理が制度化されます。取引先からHACCPの導入を要求されるケースもあり、その対応は急務となりますが、導入に当たり、従業員の意識改革や各作業工程の洗い出し等の労力が伴うため、懸念する声も寄せられています。次期の見通しは休漁期に入ることもあり、▲33.3と大幅な悪化となっています。経営上の問題点としては「従業員の確保難」「原材料価格の上昇」を訴える声が多くなっておりま

《業界の問題点等》

- ・ハセップに対しての不安（水産加工業）
- ・消費税増税による消費の落ち込みが顕著に表れて来た事を実感します。また原油価格の上昇が生産コストの上昇に影響し始めてきています。（水産加工業）
- ・原料価格の変動による製造コストへの影響（水産加工業）

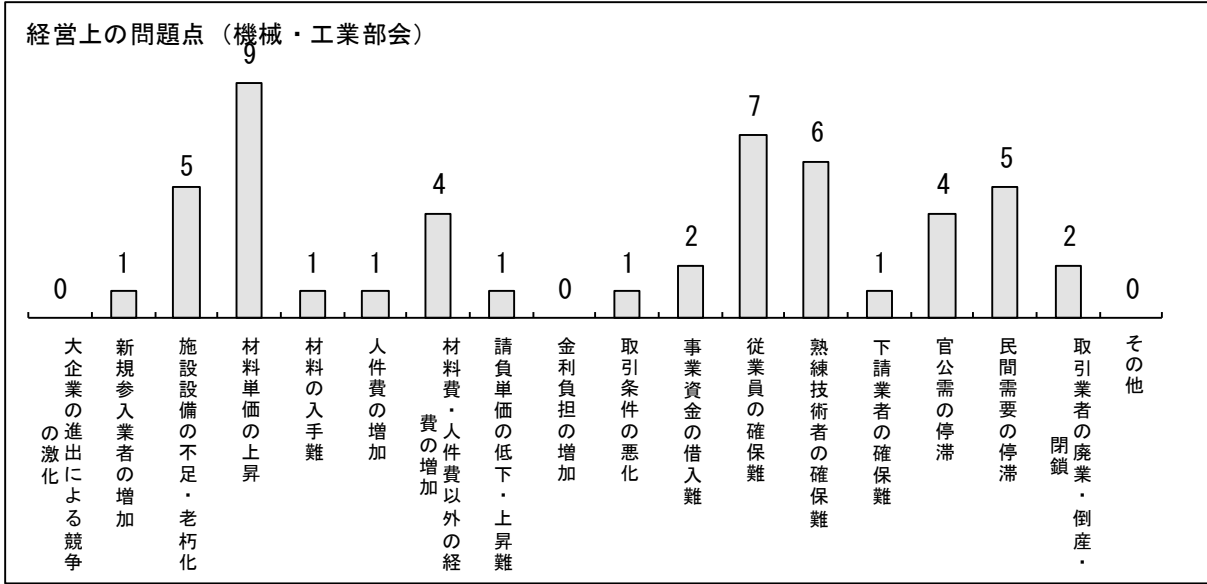


【機械工業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲21.5（前年DI値▲27.3、来期見通し▲21.5）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、5.8ポイント僅かに回復となりました。雪不足による除雪機の販売・修理が減少しているとの声が寄せられる一方、自動車整備業では、タイヤ交換や営業車両のメンテナンス需要の増加、資材の製造・販売業では、水産業の業況が回復したことにより、受注が増加しています。しかしながら、大手企業の工場閉鎖による原材料の流通悪化等、懸念材料が多く山積しています。来期業況見通しは▲21.5と今期と同ポイントとなっています。経営上の問題点としては「従業員の確保難」「原材料価格の上昇」を訴える声が多くなっていま

《業界の問題点等》

- ・特にありませんが王子名寄の閉鎖が決まり、古紙原紙の流れが道内で大きく変わる事が予想されておりま。これにより、道北でのダンボール企業では相当な費用増が見込まれております。（梱包資材等製造業）
- ・高齢と共に後継者無し。現在は機械化されていますが、何年後かには廃業のうき目に合うかも知りません。（室内装飾製造業）
- ・国有林との原料協定価格上昇。工場、事務所共に人員不足。輸送業界も同様に人員不足の為、原料のトラック搬出がスムーズにいかない。（木材製造業）
- ・経費の増加・仕入運賃の増加・油脂類の値上がり（少額商品には加算しにくい。積雪が少なく季節商品の販売低下（修理等も含む）（機械販売・修理）
- ・農産物のグローバル自由化の時代に入り、一次産業が厳しい時代になる。（機械販売・修理）

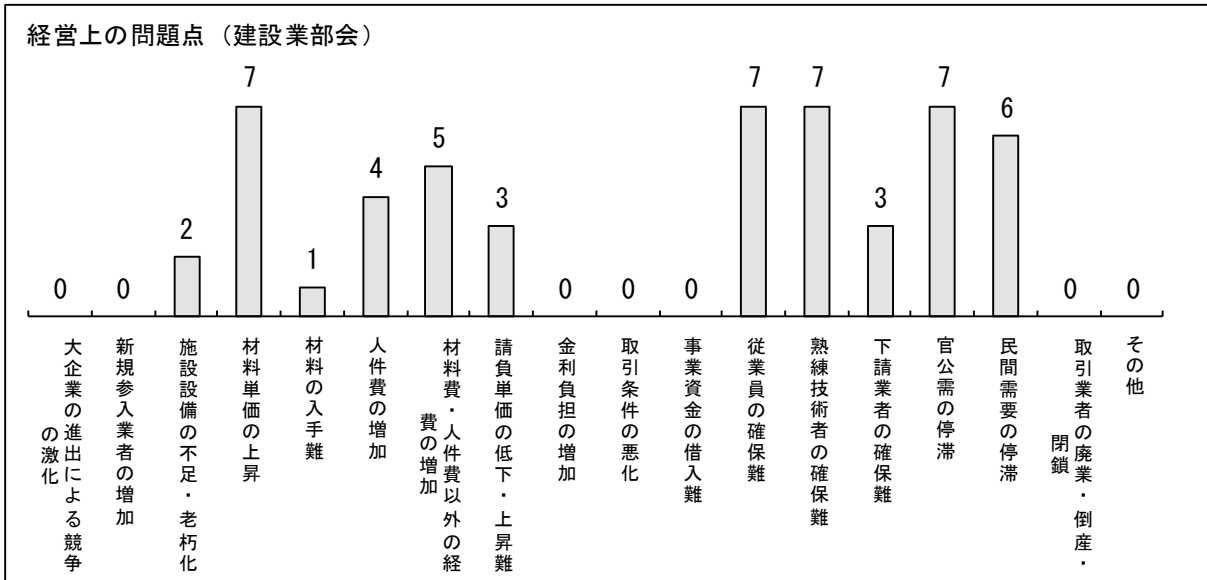


**【建設業部会】**〔業況判断DI値（前年同期比）**0.0**（前年DI値▲5.8、来期見通し▲46.7）〕

業況判断DI値（前年同期比）は0.0と前年同期より僅かに回復となりました。暖冬の影響で除排雪の出動がほとんどなく、土木工事業については冬期間の収入が確保できず、苦しい状況ではありましたが、塗装、電気設備、内装業等は一般住宅の新築、リフォームで昨年よりもやや好転と回答が寄せられました。次期はDI値が▲46.7と大幅な悪化の見通しとなっており、雪不足の懸念と、厳しい声が寄せられています。経営上の問題点としては「材料単価の上昇」「従業員・熟練技術者の確保難」を訴える声が多くなっています。

**《業界の問題点等》**

- ・市内の新築個人住宅現場は大手ホームビルダーの施工が多い。地元業者奮起を期待したい。（建設資材販売）



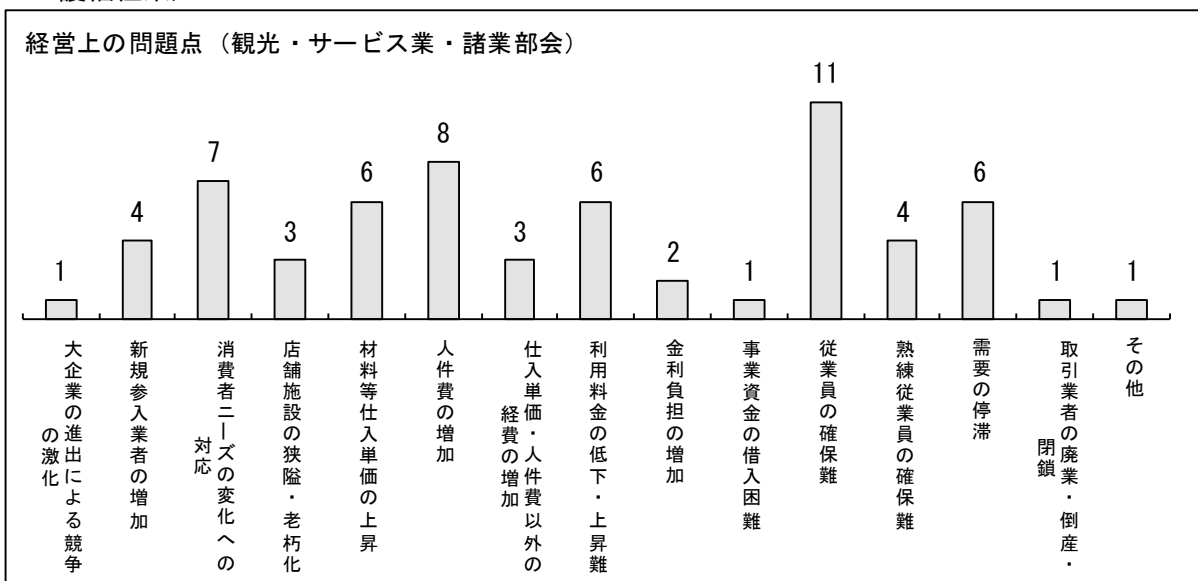
**【観光・サービス業・諸業部会】**

〔業況判断DI値（前年同期比）▲**6.6**（前年DI値▲43.7、来期見通し▲21.5）〕

業況判断DI値（前年同期比）は前年よりも37.1ポイントの回復となりました。老舗食堂の閉店により昼食利用者が増加した飲食店や、店舗の改装をしたことで利便性が高まり、利用者が増加した美容業など、一部からは前年よりも好調に推移しているとの声が寄せられる一方で、常連客の高齢化から利用者が減少しているとの声も寄せられています。来期はDI値▲21.5と更に悪化する見通しとなっています。経営上の問題点としては、「従業員の確保難」「人件費の増加」「消費者ニーズの変化への対応」が多くなっております。

**《業界の問題点等》**

- ・キャッシュレス等の増加による繁雑化、及び、負担増の懸念。(飲食業)
- ・人材不足。法律改正が多い。紙ベースの仕事が多い。従業員の高齢化、若年層がいない。(介護福祉業)



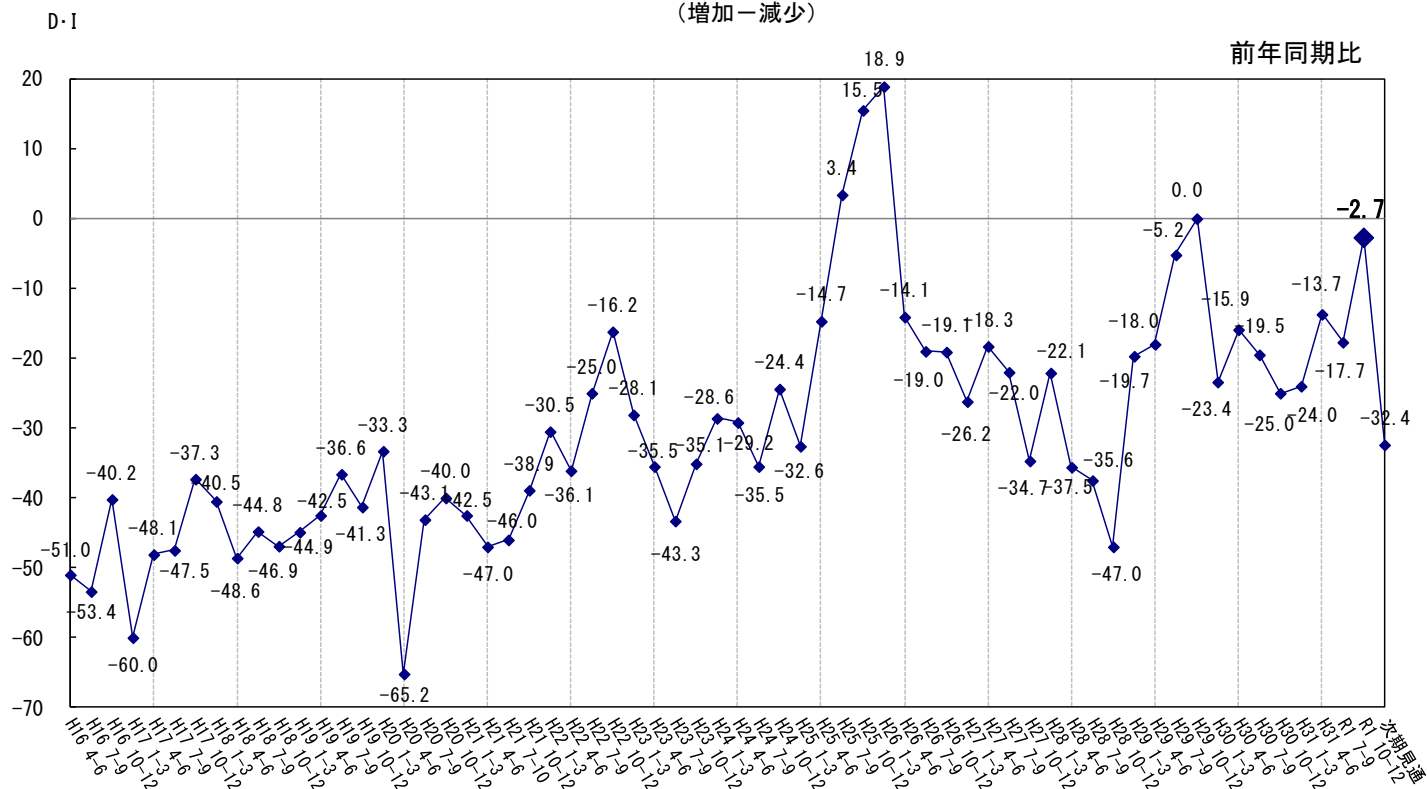
## 2. 今期の動向

### (1) 今期の売上高・生産高

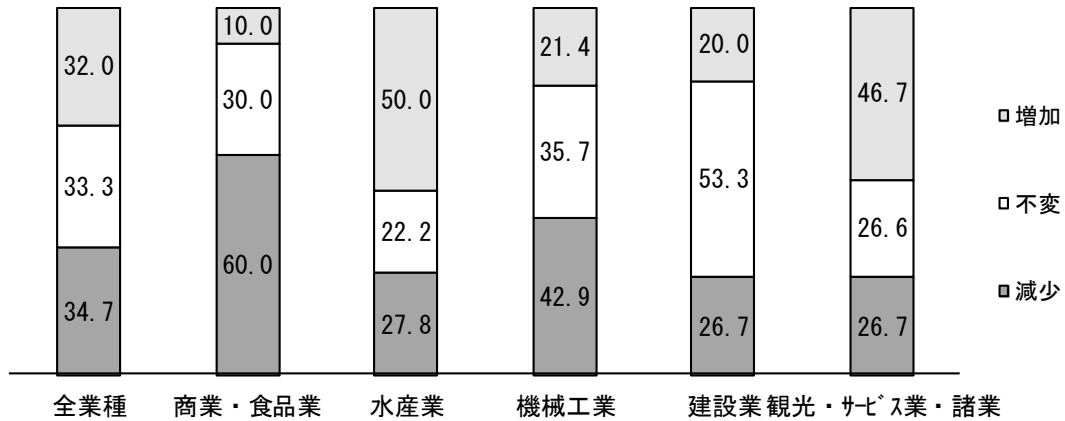
【前年同期比】（2018（平成30）年10月～12月期の水準と比較した今期の売上高）

### 売上高・生産高推移（全業種平均D・I）

（増加－減少）



### 今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均でDI値▲2.7〔前年調査時（平成30年10～12月期 ▲25.0）より22.3ポイント悪化〕

機械工業は大幅な悪化。水産業、観光サービス業・諸業は大幅回復。

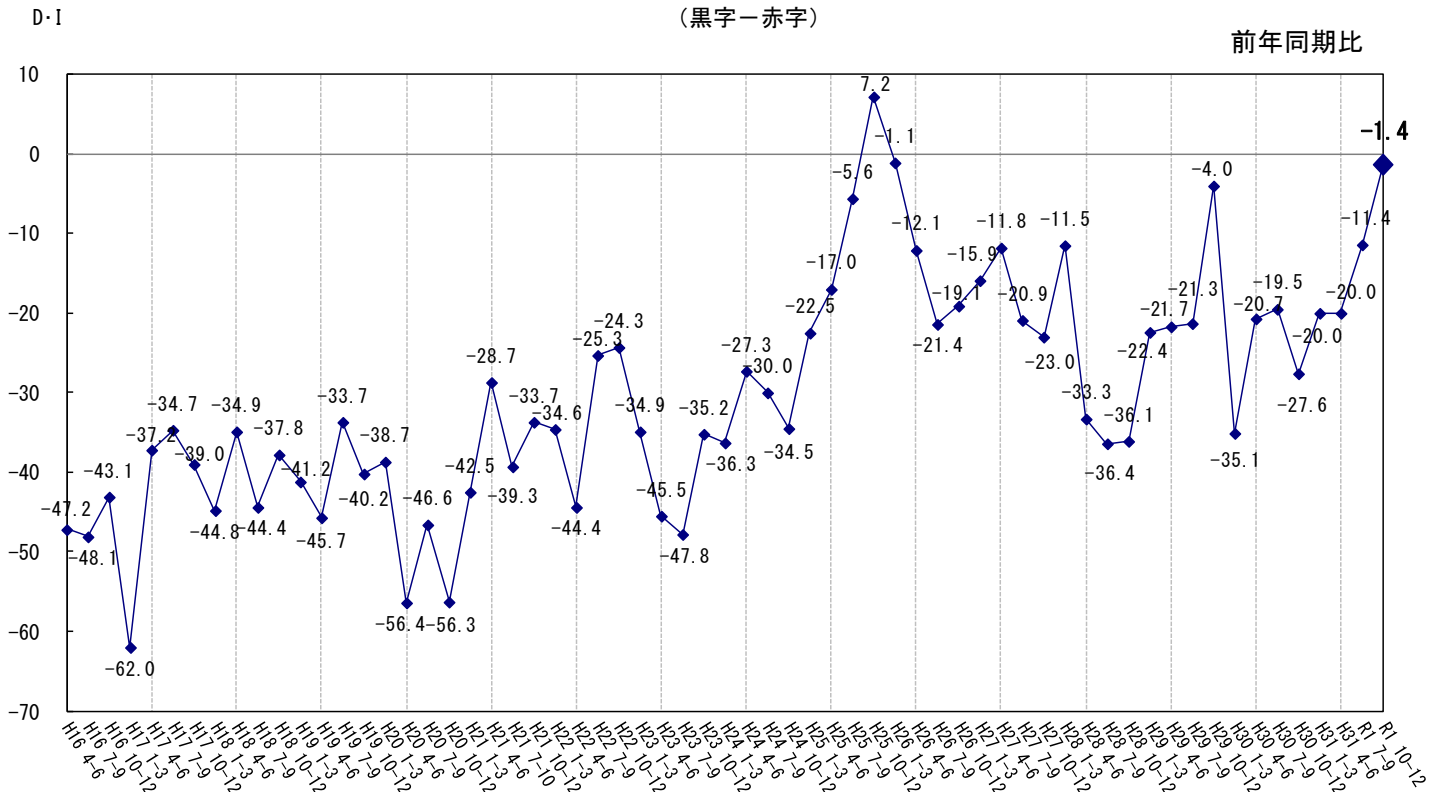
〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲56.2→▲50.0〕、水産業〔前年▲18.7→22.2〕  
 機械工業〔前年▲9.1→▲21.5〕、建設業〔前年▲5.9→▲6.7〕  
 観光・サービス業・諸業〔前年▲31.2→20.0〕

### (2) 今期の採算

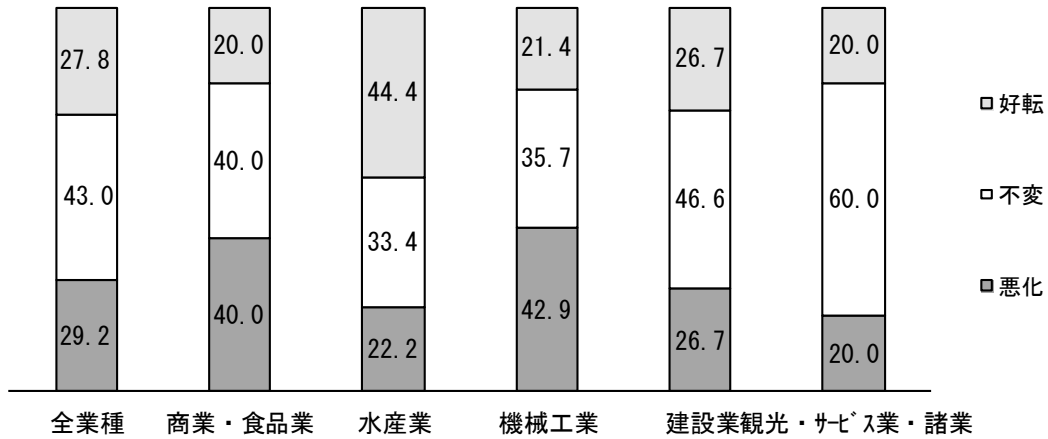
【前年同期比】（2018（平成30）年10月～12月期の水準と比較した今期の採算水準）

### 採算推移（全業種平均D・I）

（黒字－赤字）



### 今期の採算（前年同期比）

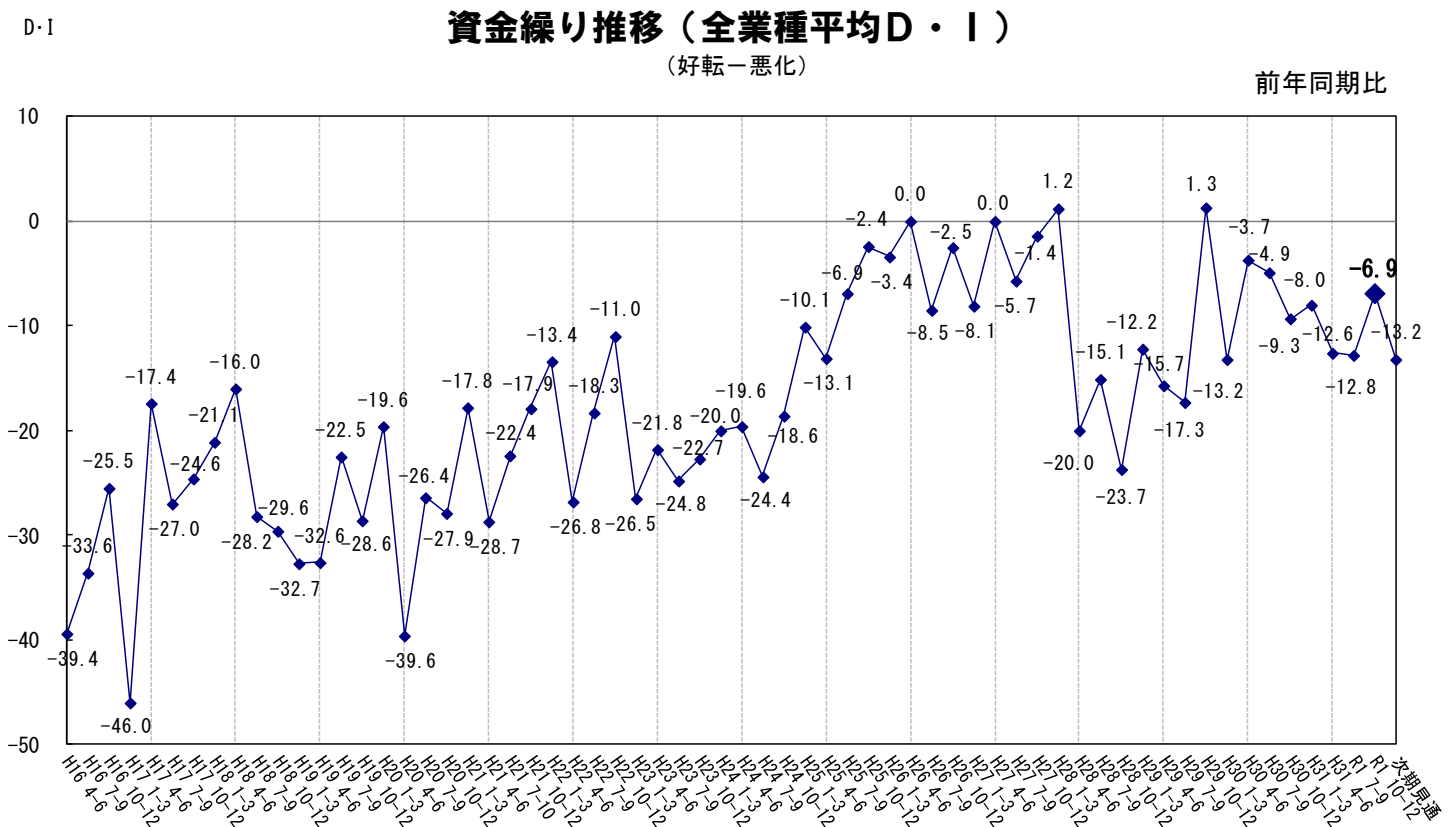


全業種平均でDI値▲1.4〔前年調査時（平成30年10～12月期▲27.6）より26.2ポイント回復〕全業種で好転。

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲56.2→▲20.0〕、水産業〔前年▲6.3→22.2〕  
 機械工業〔前年▲27.3→▲21.5〕、建設業〔前年▲11.7→0.0〕  
 観光・サービス業・諸業〔前年▲37.4→0.0〕

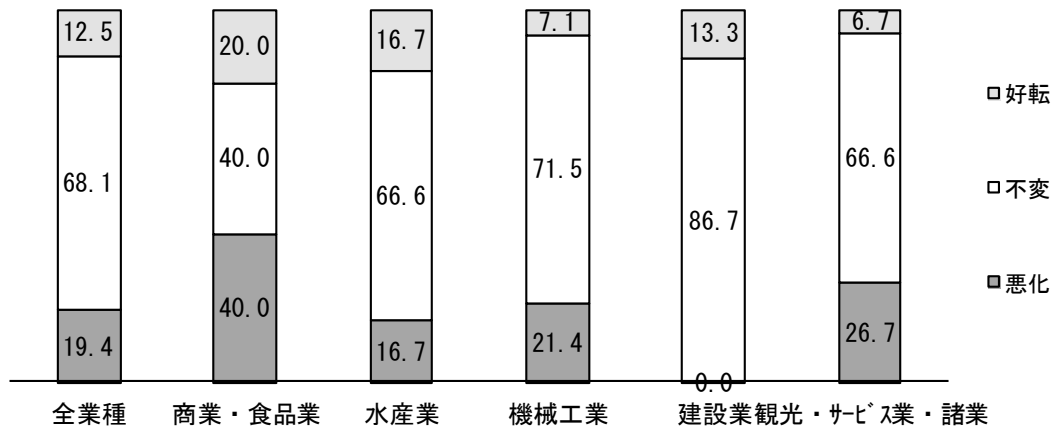
### (3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（2018（平成30）年10月～12月期の水準と比較した今期の資金繰り）





### 今期の資金繰り（前年同期比）



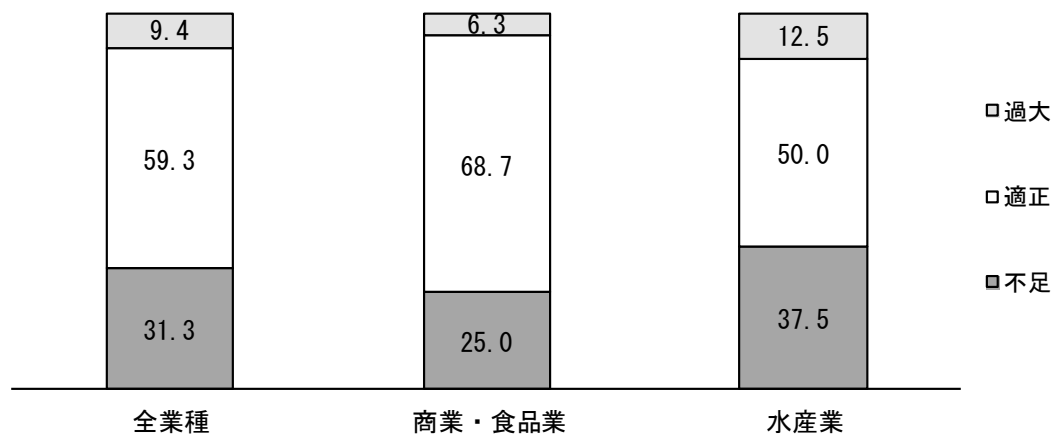
全業種平均でDI値▲6.9〔前年調査時（平成30年10～12月期▲9.3）より2.4ポイント回復〕  
建設業、観光サービス業・諸業でわずかに回復。機械工業は41.3ポイントの大幅な悪化。

[部会別DI値] 商業・食品業〔前年▲15.4→▲33.3〕、水産業〔前年6.3→▲6.2〕  
機械工業〔前年23.1→▲18.2〕、建設業〔前年5.9→11.7〕  
観光・サービス業・諸業〔前年▲12.5→▲6.3〕

### (4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（2018（平成30）年10月～12月期の水準と比較した今期の在庫水準）

### 今期の在庫水準（前年同期比）

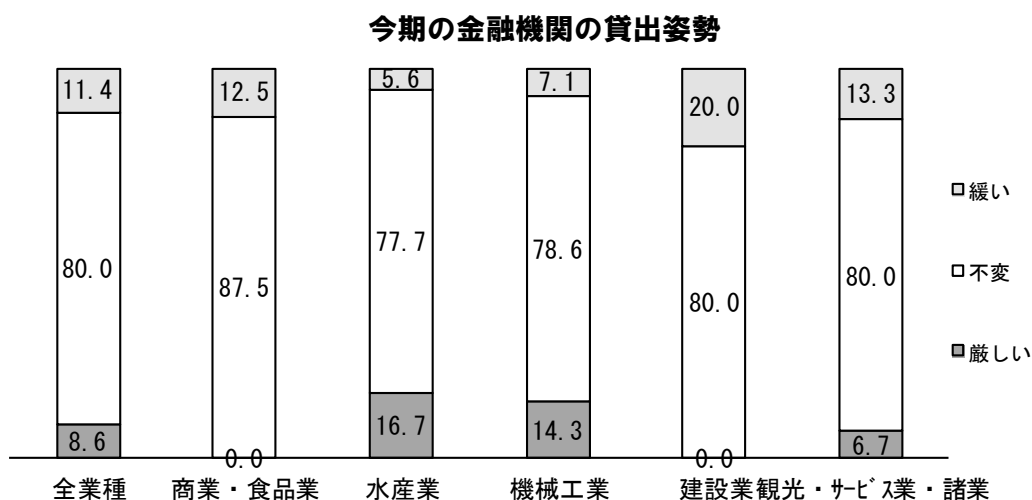


全業種平均でDI値▲3.6〔前年調査時（平成30年10～12月期▲21.9）より18.3ポイント不足傾向〕

[部会別DI値] 商業・食品業〔前年▲18.7→▲10.0〕、水産業〔前年▲25.0→0.0〕

### (5) 今期の金融機関の貸出姿勢

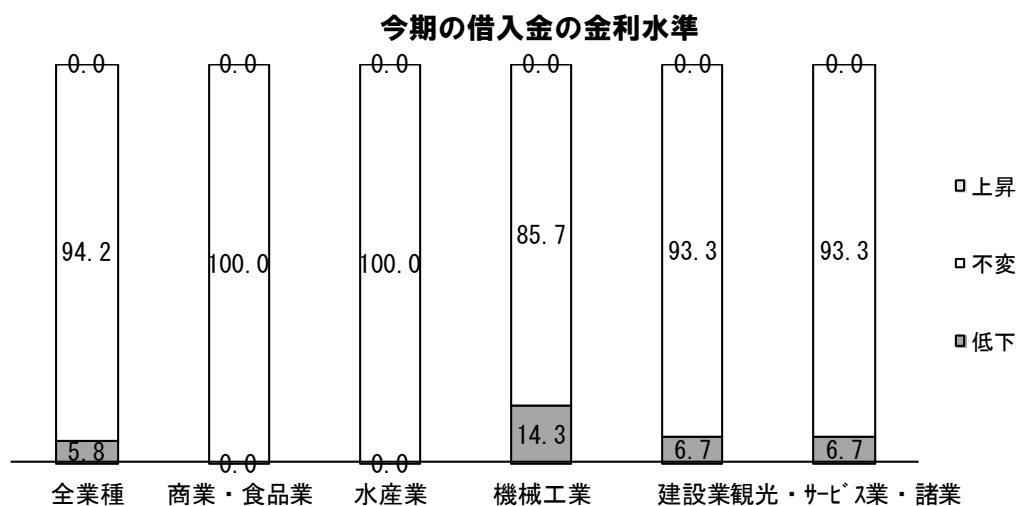
【前年同期比】(2018(平成30)年10月～12月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出姿勢)



全業種平均で**2.8**ポイント。商業食品業**12.5**、水産業**▲11.1**、機械工業**▲7.2**、建設業**20.0**、観光・サービス業・諸業**6.6**

### (6) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】(2018(平成30)年10月～12月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準)

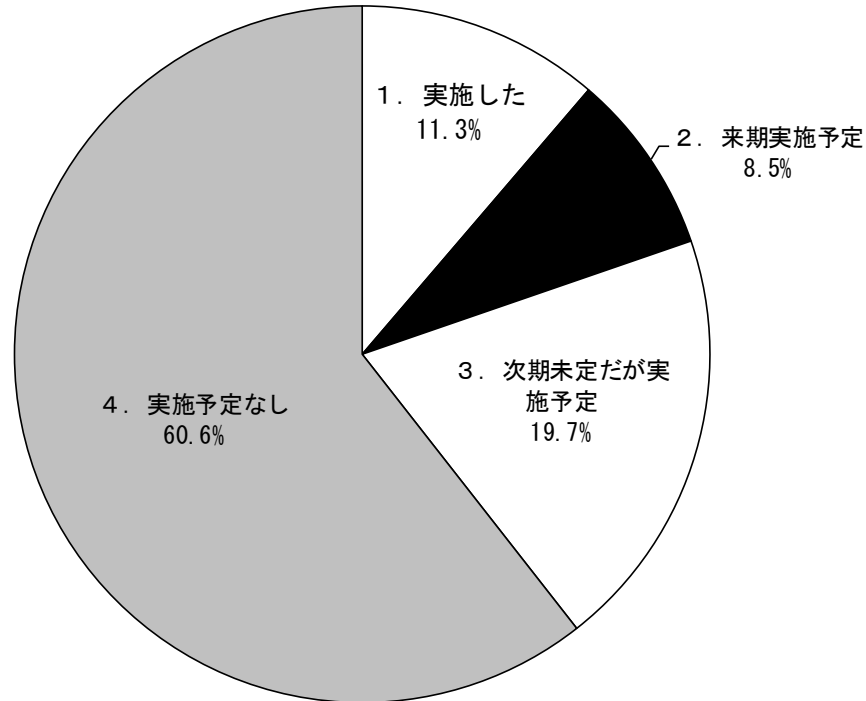


全業種平均で**▲5.8**。商業食品業**0.0**、水産業**0.0**、機械工業**▲14.3**、建設業**▲6.7**、観光・サービス業・諸業**▲6.7**。

## (7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

### 設備投資の実施状況

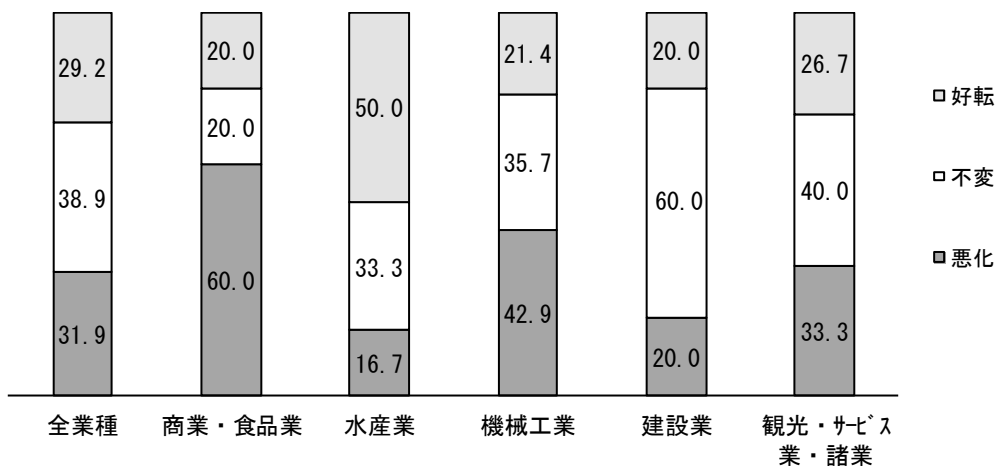


## 3. 来期の見通し

### (1) 来期の業況

【今期比】(2019(令和元)年10月～12月期の水準と比較した来期の業況見通し)

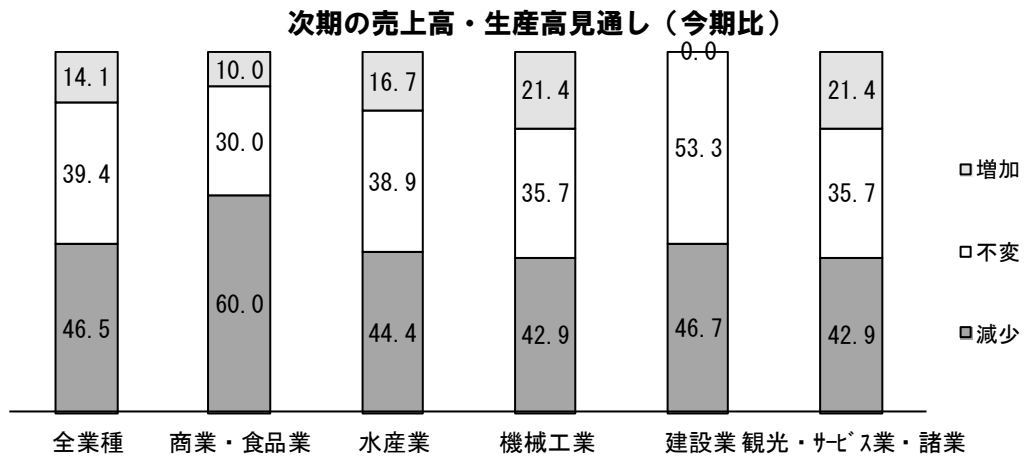
#### 今期の業況(前年同期比)



全業種平均DI値▲33.8 [今期の業況(前年同期比▲2.7)より31.1ポイント悪化の見通し]

## (2) 来期の売上高・生産高

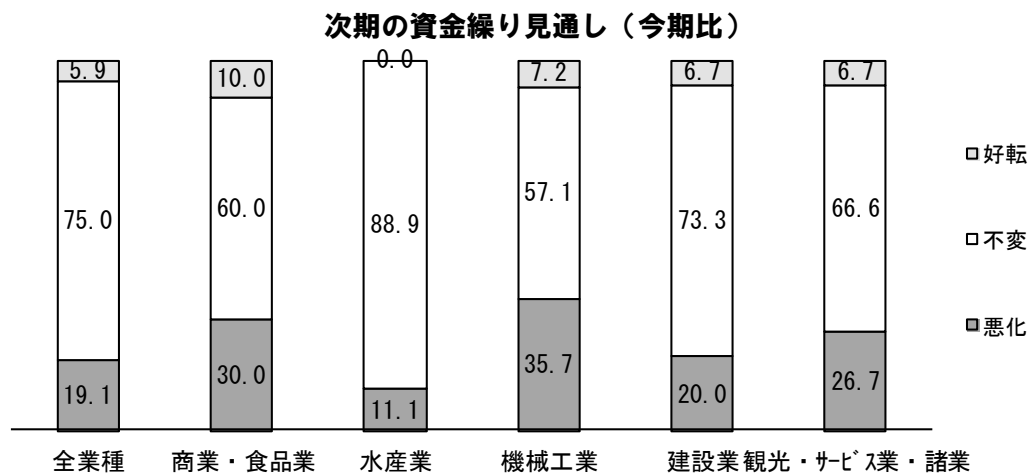
【今期比】(2019(令和元)年10月～12月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し)



全業種平均DI値▲32.4〔今期の売上高・生産高(前年同期比▲2.7)より29.7ポイント悪化の見通し〕

## (3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】(平成30(令和元)年10月～12月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し)



全業種平均DI値▲13.2〔今期の資金繰り(前年同期比▲6.9)より6.3ポイント悪化の見通し〕

### Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食品業	水産業	機械工業	建設業	観光サービス業 ・諸業
業況判断 D・I	今期実績	▲2.7	▲40.0	33.3	▲21.5	0.0	▲6.6
	来期見通し	▲33.8	▲50.0	▲33.3	▲21.5	▲46.7	▲21.5
売上・生産 D・I	今期実績	▲2.7	▲50.0	22.2	▲21.5	▲6.7	20.0
	来期見通し	▲32.4	▲50.0	▲27.7	▲21.5	▲46.7	▲21.5
在 庫 D・I	今期実績	▲3.6	▲10.0	0.0	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採 算 D・I	今期実績	▲1.4	▲20.0	22.2	▲21.5	0.0	0.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲6.9	▲20.0	0.0	▲14.3	13.3	▲20.0
	来期見通し	▲13.2	▲20.0	▲11.1	▲28.5	▲13.3	▲20.0
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	2.8	12.5	▲11.1	▲7.2	20.0	6.6
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	▲5.8	0.0	0.0	▲14.3	▲6.7	▲6.7
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。